

2012年12月9日・中国新聞「郷土の本」欄では

悲しみを代弁 真実残す詩集

広島県詩人協会幹事の大原勝人さん（86）＝府中市＝が、2冊目の詩集「涙を集めて」をコールサック社（東京）から発刊した。広島市の詩誌「火皿」などに発表した33編を収めた。

大阪大空襲、無線通信兵としての入隊と終戦、戦後の労働組合活動、家具製造販売会社の経営…。自身の体験に根差した確かな言葉で、戦争が民衆にもたらす悲しみ、労働者の苦悩を力強く代弁している。

「(略) 潰れるほど握り締めた拳の上に流した泪／悔し泪は流れるだけ流すがよい／共有する泪を掻き集めて立ち上がろう／復興と言う大義名分に隠れて／言葉は遊び呆けて霧の中(略)」(『泪を集めて』から)。東日本大震災後の状況を踏まえた表題作には、静かな怒りと覚悟がにじむ。

大原さんは「弱い人間の立場から、きれいごとではない真実を書き残していきたい」と話す。

と紹介されています。